

日立駅周辺地区

(茨城県日立市)

ポイント

- 東西市街地の一体化による都市拠点の魅力向上
- ユニバーサルデザインを取り入れた交通結節機能の強化
- デザイン監修による一体的で開放的な都市空間の形成

目標

都市拠点性の強化と交流人口を拡大し都市の活力を高める。

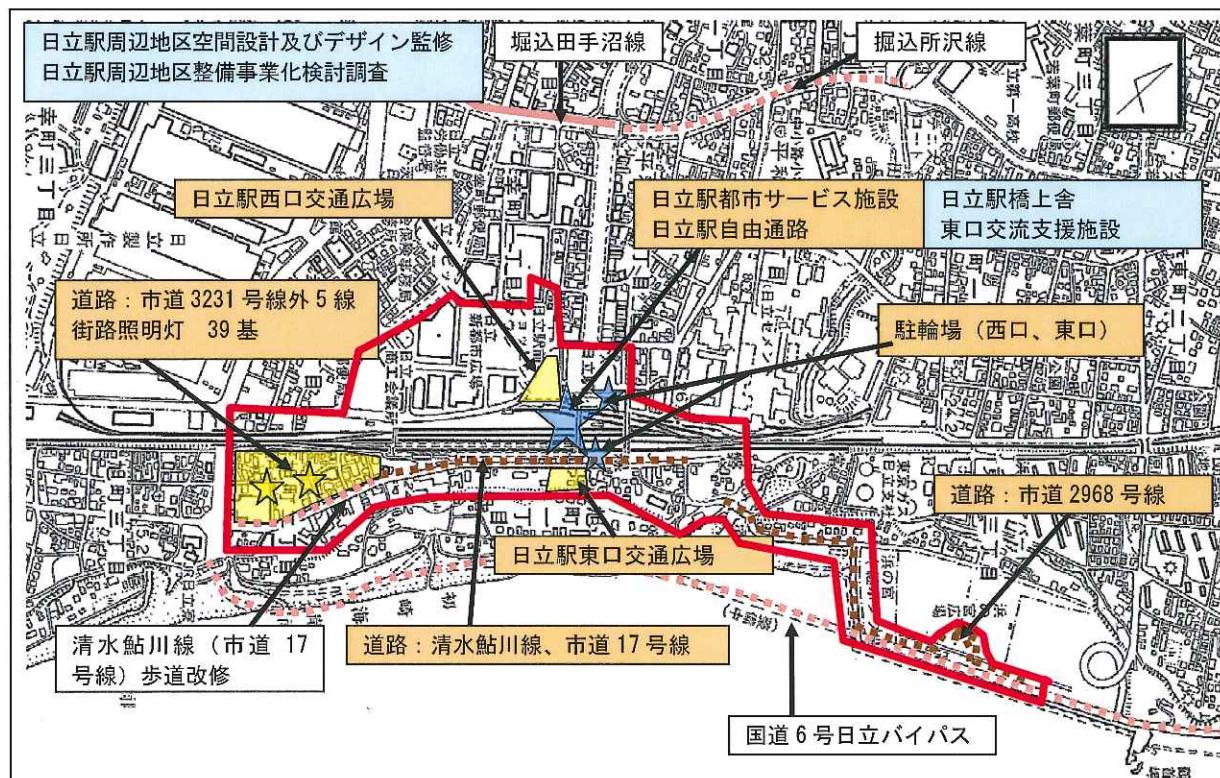
指標

都市の活力を高めるため、駅利用者の満足度の向上と、駅周辺の人々の流れを増加させることを目標とした。

項目	現況値 (年)	→	見込み値 (年)
都市拠点としての満足度	12% H17	→	37% H22
交通結節点及び交流起点としての満足度	5% H17	→	73% H22
まちの魅力についての満足度	5% H17	→	62% H22
駅周辺の賑わい再生度	137% H16	→	177% H22

事業内容 基幹事業（4,866百万円）→ 道路（9線 総延長1,913m）、日立駅東口交通広場（2,700m²）、日立駅西口交通広場（4,800m²）、駐輪場（西口1,013m²、東口57m²）、街路照明灯（39基）、日立駅都市サービス施設（257m²）、日立駅自由通路（143m）

提案事業（2,008百万円）→ 日立駅橋上駅舎（1,800m²）、東口交流支援施設（212m²）、日立駅周辺地区空間設計及びデザイン監修、日立駅周辺地区整備事業化検討調査



地区的現況と課題

日立駅周辺地区は、工業都市として発展してきた経過の中で、茨城県北部の拠点都市の玄関口としての役割を担っている。

隣接地では、昭和末期から平成初期にかけて駅前開発事業（新都市拠点整備事業）が行われたが、バブル経済の崩壊等による中心市街地の衰退を始めとして都市活力が低下傾向にあり、都市拠点性の強化や交流人口の拡大により都市活力を高めることが課題となっていた。

また、老朽化し、バリアフリー化の対応が必要になっていた日立駅を含めた関連施設の整備が日立市及び市民の長年の課題となっていた。

提案事業の特徴

まちの顔のイメージ向上

日立駅周辺を一体的な空間としてデザインの調和を図り、まちの顔として魅力ある都市空間とするため、デザイン提案競技を実施し、本市出身で世界的に著名な建築家である「妹島和世」氏をデザイン監修者として選定した。

通過点から交流拠点に

日立駅の海への近接性に着目した妹島氏は、提案事業である日立駅舎、東口交流支援施設はじめ、関連する全ての施設から海を眺望できるようにデザインした。

その結果、これまで単なる通過点であった駅が、多様な交流を育む交流拠点として訪れた人々の記憶に残り、明日への生きる活力を与える場所となった。



一体的で魅力ある空間となった日立駅周辺



駅コンコースからの眺め



駅コンサート



ブライダルフェア

日立市長のコメント

平成23年4月 東日本大震災を乗り越え、本市の玄関口である日立駅と自由通路が装いも新たに供用を開始しました。

駅舎や自由通路の整備では、デザイン監修者である妹島和世氏のコンセプトを実現するため、安全性を最重要視する鉄道事業者との綿密な協議を重ね、困難な課題を共に解決して完成にこぎつけました。

また、財政負担ができる限り抑えるため、社会資本整備総合交付金（まちづくり交付金）を活用したほか、整備途中で直面した建設資材価格の高騰にも、コストを縮減するなどして対応しました。

多くの関係者の努力により様々な障壁を乗り越えて完成した日立駅周辺地区は、現在、本賞の受賞をはじめ市内外から高い評価を得ています。本事業を本市におけるまちづくりの成功事例と捉え、今後とも市民が誇りを持てるような、創意工夫を活かしたまちづくりを推進してまいります。

駅利用者等のコメント

- ・遠方の知人に会う際に、素晴らしい駅を自慢するのでパンフレットをもらいたい。
- ・高校の同窓会で久しぶりに日立駅に降りたが、驚いた、素晴らしい駅で感激した。
- ・駅のデザインが素晴らしいですね、これだけで観光名所になります。
- ・海への景観を最大限に生かした素晴らしい建物で感激しました。
- ・近代的な駅になって誇りに思う、以前のように活気あふれるまちにしてもらいたい。
- ・息子の大学受験のため日立駅に降りた際、志望した大学でなく意気消沈していた息子が、あまりにも素晴らしい駅だったため非常にテンションがあがった、素敵なお駅に感謝します。